

日本経営工学会 平成28年度秋季大会

オーガナイズド・セッション

2016年10月29日(土)
09:30～10:30

F07：企業のイノベーション活動を支えるMOT

日本企業の再興とMOT研究会主査 西村泰一 HOYA(株)

F08：成長企業が構築する企業インフラ「イノベーション・プラットフォーム」の条件

江口 隆夫 神鋼リサーチ(株)

F09：計量書誌学に基づくアライアンス開発動特性の研究

田中慶一 (株)ニコン コアテクノロジーセンター

1. 研究会の概要

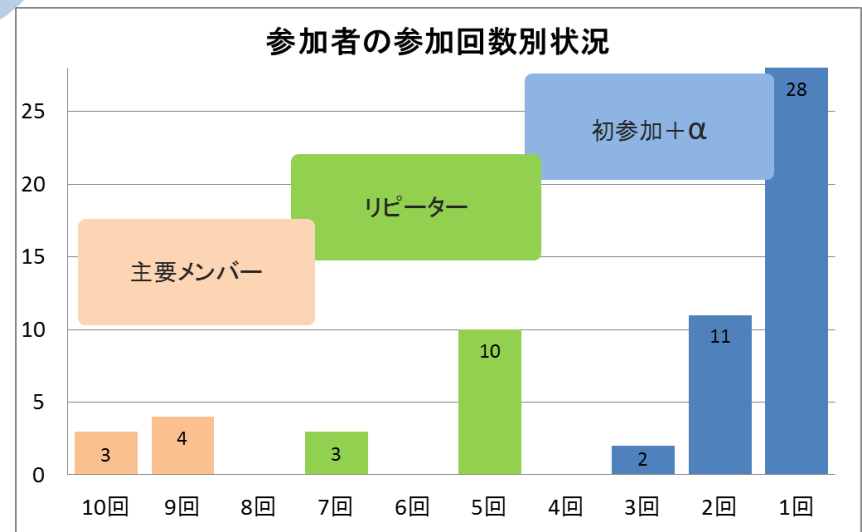
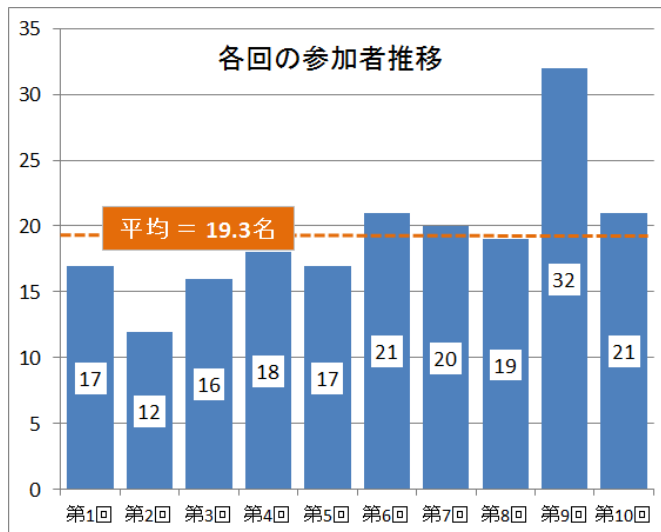
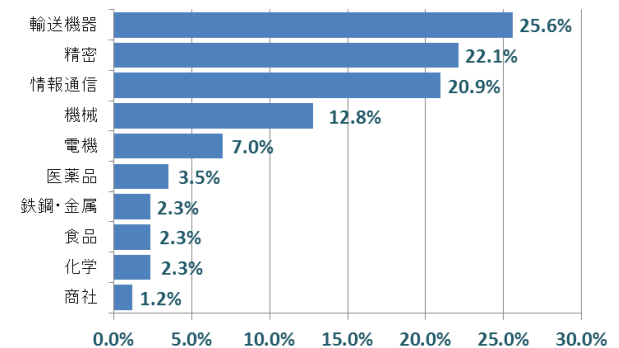
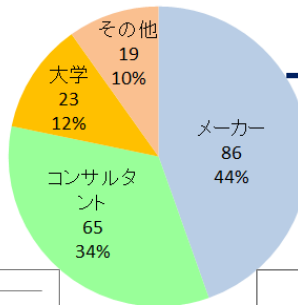
- ◆ MOTに関連するタイムリーな課題を、毎回講師と主査で相談して内容を決定
- ◆ 活動予定は日本経営工学会のメールマガジン、当研究会のWEBサイト他で通知
(<http://www.geocities.jp/motbukai/>)
- ◆ 新宿工学院大学にて年間5回程度開催、開催日は土曜日の13時半から約3時間



2. 参加者の状況

- ◆ オープン型なので、メーカー、コンサルタント、大学と参加者の所属は多岐に渡る
- ◆ 20名前後の方が参加（うち2～3名が初めての方）
- ◆ ほぼ参加者全員との間で質疑応答・意見交換を実施

参加者の所属別状況
(全10回 n=193)



3. 平成26～27年度の研究PJ

【問題認識】

漠然とした将来への不安・・・

- ◆ 20世紀の延長線上の価値観で構成されてきた技術と経営が転換点にある。
- ◆ 日本の現状を見ると閉塞感が漂い、今後10年、20年後の姿が見えてこない。

【PJの進め方】

何処に焦点を当てて行くか・・・

- ◆ 日本企業を取り巻く内外の環境変化、構造的な問題等を再認識する。
- ◆ 将来の日本企業再興の可能性(課題や条件)を探索する。

全10回の活動を通じての結言としては・・・

<イノベーションインフラの構築>

経営人材に求められるスキルを統合して、
経営の助けとなるイノベーションを
組織的に生み出していくインフラの構築を
各企業自ら進めていく事が日本企業の再興になる。

4. 結言に至る各回のキーワード

色々な意見・考え方が出てきたが、敢えて短い言葉で表現すると

- ① 日本産業界の卓越し成熟した技術同士の融合（オープンイノベーション）
- ② イノベーション 3つの鍵(ターゲットが明確、価値が確認可能、競争優位仮説の成立)
- ③ 枠の中で考える人々、老人の包囲網(インフラ)
- ④ イノベーションを創出する仕組みは企業自身の試行・開発が必要
- ⑤ イノベーションから事業化プロセスに至る不確実性と事業評価の仕組み
- ⑥ リバースイノベーション2.0（中国で生まれた新しいイノベーションの形）
- ⑦ 特許と競争優位につながる要素の組み合わせ(コスト、ビジネスモデル、生産技術等)
- ⑧ 待っているのではなくて、自らチームを作り、自ら仕掛ける環境
- ⑨ 研究・技術開発は会社が苦しい時の助けになっているか？
- ⑩ 事前はあるが事後は無い「経済性評価」

5. まとめと平成28年度～

平成24～25年度 : 固有技術と生産プロセスの再ブラックボックス化

革新的な製品やサービスは、人間が生み出す知(アイデア)と数多くのデータ収集と分析の積み重ねから生まれてきた。それを繰り返していく事が日本型MOTの発展に繋がる。

平成26～27年度 : イノベーション・インフラの構築

経営人材に求められるスキルを統合して、経営の助けとなるイノベーションを組織的に生み出していくインフラの構築を各企業自ら進めていく事が日本企業の再興になる。

平成28年度～ : 日本再活性化とMOT 人間力、中小企業、・・・

人と企業に焦点を当てて、考え直す。

- 1 : 日本企業のダイバーシティと外国人雇用
- 2 : 海外企業のKaizenを通じて日本企業を見直す
- 3 : エスノグラフィの経営への応用
- ・・・

タイムリーな話題とそれに対しての問題提起の継続。